大阪府北部地震　救護班３班

大阪府北部地震発災３日後の活動　～救護班第３班～

６月 20 日、大阪赤十字病院および高槻赤十字病院の救護班が茨木市にある各避難所の状況確認のために茨木市の保健医療センターに派遣されました。派遣メンバーは医師 3 名、看護師３名、助産師１名、薬剤師３名、主事３名で構成されました。当日は発災３日後ということで多くの公共交通機関が正常に運転されおり、ライフラインに関してもガス以外は復旧していました。また茨木市内の医療機関は全て開院していました。目的地に向かう車窓からは本当に地震が起こったのかと思うほど、被害にあった建物を見ることはありませんでした。

午前９時 30 分に保健医療センターに到着し、同市の保健師とミーティングおよび班分けが行われました。午前 10 時よりそれぞれの班に茨木市の保健師が 1 名同行し、各避難所の訪問に出発しました。6 月 20 日時点で 75 ケ所の避難所が開設されており、私の班は市街地にある小学校や中学校を午前中に６ケ所訪問しました。各施設に 10 名から 20 名の避難者の方がおられ、健康状態や各施設の衛生状況の聞き取り調査を行いました。避難者の方々からは「体調は大丈夫だけど、家の中が大変な状態なことになっているので避難してきた」、「昼間はひとりになるので、もしまた地震が起きたら怖いのでここに来ました」という意見がありました。また中には病気を持っておられる方がおられましたが、処方薬を持参されていることなどから医療ニーズは低いと判断されました。午後に茨木市北部の地域を中心に小学校や公民館などを訪問したのですが６ケ所ともに避難されている方はおられず、主に各施設の備蓄品や衛生状態(水道・トイレなど)の確認を行いました。

午後４時 30 分にすべての避難所の訪問を終え、保健医療センターに戻りました。その後センターでは赤十字の職員と保健師でミーティングを行い、各施設の避難者の状態・衛生状態などについて話し合われました。今回の地震では身体的な問題に比べ、地震による精神的なストレスを持っておられる方が多いとの意見が出ました。

私たち救護員は、日頃から災害時における救護やこころのケアに関する研修・訓練を受けていますが、今回私は初めて避難所を訪問し、地震によるストレスや不安を持っておられる方に多く出会いました。こころのケアの重要性を改めて強く感じるとともに、この経験を生かして日々の研修・訓練に精進していこうと思います。